

# 北陸大学 vs 常葉大学浜松キャンパス

12月8日(火) 11:00  
町田

昨年に引き続き本大会は9回目の出場となる、東海チャンピオン常葉大学浜松キャンパス。昨年は仙台大に2度追いつきながらも最後に力尽きて初戦敗退。夏の総理大臣杯でも鹿屋体育大相手に2度のリードを奪いながら、後半に大崩れて初戦突破ならなかった。「昨年は初戦で敗退し、悔しい思いをしたので今年はその悔しさを初戦にぶつける」と、澤登正朗監督の初戦に賭ける思いは強い。東海リーグ得点王のFW大野羅平(3年)をはじめ、得点ランキング3位のFW遠藤維也(4年)を中心とした攻撃力で、今年こそ初戦を突破したいところ。

対する北陸大は今年の総理杯で、3回目の挑戦で全国大会初勝利をあげた。奇しくもインカレへの出場も3回目。総理杯に続いて初戦突破といきたいところ。しかし、「常葉大学浜松キャンパスさんは、毎年練習試合で胸を借りている相手。個々の能力が非常に高く、得点力がある(西川周吾監督)と警戒も怠らない。このチームは今年多くの経験をし、トライ&エラーを繰り返してきた」というチームワークを、どこまで活かせるかに注目だ。

(文・飯嶋玲子)

1 谷垣	北陸大
2 野崎 4 深井	
3 望月	5 佐藤
6 武井	
7 菅原 8 大澤	
10 越	9 金
11 小畑	
11 遠藤 9 大野	
7 宮内	8 本多
10 福田 13 三浦	
3 濱	5 登崎 22 渡邊 6 藤田
常葉大	1 白井

# 九州産業大学 vs 札幌大学

12月8日(火) 13:30  
町田

昨年に引き続き、17回目の出場となった九州産業大は今年「本気・覚悟・成長を下に、走るサッカー、ポゼッションサッカーを徹してきた」と、山本裕司監督が言うように手堅いサッカーをしてきた。注目はFW佐保昂兵衛(4年)、FW無津呂武瑠(3年)の攻撃力。「チャレンジャーとして恥ずかしくない試合をしたい」と同監督。最後まで諦めずに走り回り、出場を目標にしてきた全国大会で待望の勝利を掴めるか。

対する札幌大は東北第2代表の富士大とのプレーオフを3-2で制し、5年連続40回目の出場を決めた。今シーズンは全国の舞台を経験したことのある4年生が主力を成している。「九産大についてはほとんどデータのなものはなく、今年培ってきたものを全てをこの一戦に出し切る」と、橋本茂之監督は初戦突破に向けて意気込む。チームの長所である縦に速い攻撃で得点を目指す。北海道リーグでは惜しくも優勝はならなかったが、得点王のFW澤野康介(4年)を中心に、リーグ最多得点を誇る攻撃陣の活躍に期待だ。

(文・松本浩)

21 楠本	九産大
3 月成 4 行武	
17 山口(恭)	24 山口(慶)
13 末永 14 松崎	
23 佐保	22 関
6 築地 30 無津 呂	
10 澤野 11 下田	
30 阿部	9 有働
7 種元 5 土谷	
6 池田	4 廣瀬 20 工藤 8 竹林
札幌大	1 花田

## ★大会公式プログラム★

各会場プログラム販売所にて、大会公式プログラムを1冊1,000円で販売中！  
巻頭「浦和レッズ 宇賀神友弥×武藤雄樹」の流経大出身選手の特別対談は必見！！

## ☆ユニフォーム型ストラップ☆

出場全大学のユニフォーム型ストラップを販売いたします！1個500円。  
64回大会にちなんで、64 All Japan Championshipの特別仕様。観戦の記念に是非。

## ★I PLAY FOR PHOTO BOOK★

インカレ出場全大学の選手・スタッフの想い「I PLAY FOR…」が詰まった大会公式グッズ！  
1冊500円。冊数限定なのでお買い求めはお早めに！！

◇(一財)全日本大学サッカー連盟公式 SNS◇  
全会場・全試合リアルタイム速報はTwitter:@JUFA\_soccer

アパマンショップ Presents 平成27年度第64回全日本大学サッカー選手権大会

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

# 展望

NO.1

発行：一般財団法人 全日本大学サッカー連盟



# 高知大学 vs 愛知学院大学

12月8日(火) 10:50  
相模原

22年連続31回目の出場と、四国王者としての定位置を堅守し続けている高知大。伝統的に足元の確かな選手が多いのが特徴。今年主将のDF 西岡大志(4年)をはじめ、攻撃の起点にもなる右SBの椎智行(4年)などディフェンスラインの選手に加え、サイドアタッカーのMF 曾根友祐(4年)や、C大阪でプロを経験しているMF 後藤寛太(4年)ら攻撃の駒も揃っている。「連続出場だけが我々の目標ではない」との野地照樹監督の言葉通り、'09年総理大臣杯準優勝以上の結果を残したいところだ。

東海第2代表として3年連続の出場をはたした愛知学院大は、攻守にバランスの取れた組織的なサッカーで「しっかりとボールを中心にゴールに向かうことに拘ってきた」(境田雅章監督)。その中心が中盤の底でゲームを司るMF 砂井翔太(4年)の存在だ。さらに鋭いドリブルでチャンスを作るMF 水谷侑暉(4年)、点取り屋のFW 知念慶(3年)など魅力的な攻撃陣も揃えている。ともに「つなぐ」意識の強い高知大との対戦になるが、「いい守備から、観てもプレーしても面白いサッカーをして一つでも多く勝ち上がりたい」(同監督)。(文・飯嶋玲子)

	1 福島	高知大
2 椎	3 山下	4 西岡
	7 下園	20 藤井
8 岡田		10 曾根
	18 勝田	11 藤川
	9 知念	11 佐野
	14 水谷	
	7 砂井	10 森川
15 林	22 有瀬	6 三浦
	5 上田	
愛院大	1 三輪	

# 桃山学院大学 vs 北海道教育大学岩見沢校

12月8日(火) 13:15  
相模原

3年ぶりのインカレ出場を果たした桃山学院大の特徴は、堅守。主将のDF 上原俊喜(4年)を中心に手堅い戦いで、関西リーグを勝ち抜いた。攻撃もユニバーシアード代表のFW 岡佳樹(3年)を筆頭に、10番を背負うMF 伊藤圭斗(4年)、正確なクロスが持ち味の左SB 岩崎尚将(2年)など個性溢れるタレントが揃い、切れ味十分。「切確琢磨」をスローガンに掲げるように、リーグ戦を通じて誰がいても戦力が落ちない選手層が身についたことも短期決戦のインカレで有利に働くはずだ。楚輪博監督は「関西3位なので、初戦はプライドをもって突破したい」と話す。

対する北海道教育大岩見沢校は、「大事な試合や苦しい状況でチーム一丸となって力を発揮できるチーム」と越山賢一監督が胸を張るように、団結力が持ち味。北海道リーグでは、教育実習で選手が抜けることもあったが、42人の部員全員が一丸となった戦いを見せ、無敗優勝を達成した。全国の戦いを左右するのは、リーグ14試合を8失点で終えた守備の出来。失点を回避し、「毎年、進化している」と指揮官が自信を見せる縦に早い攻撃に繋ぐことができるか注目だ。(文・森田将義)

	22 湖上	桃山大
29 仲	2 石津	4 上原
	22 石黒	15 藤城
11 岩井		10 伊藤
	12 弦本	9 岡
	32 佐賀	37 加藤
14 岡崎	17 松本	25 小泉
	31 奈良	2 井端
26 見原	6 高橋	23 深井
岩教大	16 福永	

# 福山大学 vs 鹿屋体育大学

12月8日(火) 11:00  
柏の葉

プレーオフで四国学院大との激闘を制し、2年連続のインカレ出場を決めた福山大。昨年大会を経験した選手が多く残る今シーズンは、チームのストロングポイントである攻撃に更に磨きをかけてきた。多彩な得点パターンでゴールを量産することができる。そのためには、個性的な選手達が1つにまとまれるかどうかが鍵となる。注目選手は中盤でゲームをコントロールするMF 中原翼(3年)と、勝負強いストライカーのFW 加次佑(3年)。昨年の総理大臣杯で敗れた鹿屋体育大に対し、ベンジを果たしたいところだ。

対するは7年連続の出場で、インカレ常連組となった鹿屋体育大だ。個々のストロングポイントを伸ばすことと、層の厚さを構築することをテーマに掲げた今シーズン。九州リーグでは福岡大には僅かに及ばず2位に終わったものの、22試合でわずか14失点に抑えた守備陣を中心に堅実なゲーム展開で勝利を目指す。中盤の底でゲームをコントロールする主将のMF 中原優生(4年)や、2年生ながら10番を背負うMF 松田天馬を中心とした破壊力抜群の攻撃陣にも注目したい。(文・井上拓也)

	1 小西	福山大
6 松島	5 森川	4 越智
	7 前原	26 平山
11 村上	9 國師	8 林
	10 加次	
	27 森川	9 冷岡
2 藤山	8 中原	10 松田
	13 福森	
7 下坂	5 寺田	30 原
鹿屋大	1 馬渡	

# 大阪体育大学 vs IPU・環太平洋大学

12月8日(火) 13:30  
柏の葉

2年前にインカレを制した大阪体育大だが、関西リーグの後期では黒星が先行するなど大苦戦。最終節の試合終了間際に奪った得点により、5位での出場権を掴んだ。チームの命運を分けるのは、C大阪入団内定のFW 澤上竜二(4年)とFW 池上丈二(3年)の2トップ。リーグでは二人にボールが入らず、苦戦する場面が見られたが、ハマった時の得点力は抜群。守備も坂本康博総監督が「将来、代表に入れるだけのポテンシャルがある」と評すDF 菊池流帆(1年)の存在が心強い。創部50周年の節目に、2度目の頂点を手にできるだろうか。

対するIPU・環太平洋大は、「相手のストロングポイントは、高さやパワー、スピードといったフィジカルな部分。個では勝てそうにないのでチームとして対応したい」と桂秀樹監督が気を引き締めると信じている一方、「IPUスタイルのサッカーが出れば勝機は必ずある」と信じている」と自信も垣間見える。今季は持ち味である数的優位を作るパスサッカーと共に、質と仕掛けの部分にフォーカスし強化をおこなってきた。取り組みの成果を示すことができれば、過去2度目の出場場で涙を飲んだ初戦突破も見えてくる。(文・森田将義)

	21 野坂	大体大
25 山田	4 菊池	3 羽田
	8 後藤	5 秋山
19 中村		11 久保田
	6 池上	10 澤上
	14 前田	11 梶山
8 竜田		20 片田
	6 中舛	7 大倉
19 甲斐	2 古賀	3 河本
環太大	1 池上	

# 大阪学院大学 vs 順天堂大学

12月8日(火) 11:00  
ゼットエー

8年ぶり2度目の出場となる大阪学院大は目標のベスト8進出を果たすべく、藤原義三監督は「とにかく初戦が全て」と一戦必勝を誓う。試合のポイントとなるのは、順天堂大のバスサッカーをいかに分断できるか。DF 福田浩規(3年)、MF 山千代大斗(4年)を中心に粘り強い守りを見せることができるか注目だ。攻撃のキーマンとなるのは、「うちの生命線」と藤原監督が評するMF 河合秀人(4年)、箱崎裕也(3年)の両翼。突破力に長けた2人がボールに絡む回数が増えれば、自ずと勝利も見えてくる。

金沢星稷大(北信越2位)とのプレーオフを制して、2年連続での出場権を掴んだ順天堂大。注目は元日本代表DFの堀池巧新監督の下、徹底してきたバスサッカーが全国でどこまで通用するか。戦いを左右するのは川崎F内定のFW 長谷川竜也(4年)。彼が持ち味を発揮すれば、勝機が広がることは間違いない。MF 米田隼也(2年)、FW 名古屋新太郎(1年)といった得点力のある前線に加え、怪我で戦列を離れていた肉体派FW 佐野翼(3年)の復活も心強く、上位に食い込む可能性は十分だ。(文・森田将義)

	71 池宗	大関大
13 阿部	4 福田	12 加奈川
	20 三木	5 山千代
8 箱崎		7 河合
	11 富瀬	3 瀧谷
	9 佐野	10 長谷川
11 米田		27 杉田
	6 青木	24 室伏
12 原田		3 吉永
	4 矢部	13 宮本
順大	30 今川	

# 中京大学 vs 仙台大学

12月8日(火) 13:30  
ゼットエー

昨年大会では、1回戦で常葉大学浜松キャンパスに逆転勝ちし、2回戦では優勝候補の明治大を下すなどして、ベスト8に進出した仙台大。昨年からは分析のプロである森本美行コーチを迎え、徹底した分析から相手の隙を見逃さずに攻撃を仕掛けるなど、油断のならないチームとなっている。松本山雅でプレー経験のあるDF 山田満夫(2年)やベガルタ仙台の特別指定選手でもあるDF 榎本滉大(3年)を中心とした粘り強い守備も魅力のひとつ。「全国大会で一つ勝つことを目標に粘り組んできた」(仙台大・吉井秀邦監督)という成果をどこまで表現できるか。

一方の中京大は東海第3代表として2年ぶりの出場となる。全日本大学選抜GKの石井綾(4年)、FC 岐阜内定のサイドバック鈴木潤(4年)などタレントは豊富だが、今年からチームを率いる朝倉吉彦監督は「仙台大は相手によって戦術を使い分けてくるイメージが強い」と警戒を強める。徹底してミスを補い、次につなげるサッカーを展開してきたが、そのうえで「トランジションと突破のスピードにこだわって戦いたい」(同監督)。(文・飯嶋玲子)

	1 石井	中京大
6 水野(隼)	5 西村	26 村瀬
	4 青木	16 江口
19 藤島		10 橋本
	3 猪木	9 水野(翔)
11 石川	18 堺	9 川島
	14 宮澤	
	8 高橋	6 菅原
5 石橋	10 山田	3 榎本
仙台大	1 古川	